

平成20年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	埼玉県における専修学校、高等学校の連携による職業教育体験学習「わくわーく仕事塾」		
法人名	社団法人埼玉県専修学校各種学校教育振興会		
学校名			
代表者	会長 岡本比呂志	担当者 連絡先	野本重雄 TEL 048(865)2195

1. 事業の概要

専修学校、高等学校の連携を図り、専修学校の専門的な知識や技能を活かし、高校生を対象として多岐に亘る分野において職業教育体験学習を実施することにより、職業意識の醸成と就労観の育成を図る。

実施にあたっては、埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県高等学校進路指導研究会(高進研)の後援をえて、教育委員会指導主事、高進研会長、本会正副会長等を委員とする実施委員会を核として事業全体の企画調整を図り、高等学校との連携、事業の評価を行った。さらに、分科会を設け、参加高等学校との連携を密にし、各専修学校での職業教育体験学習の円滑な運営を図った。また、高校生のニーズに応えられるような多岐に亘る分野のプログラム策定を行い、積極的に職業教育体験学習の構築に取り組んだ。21の専修学校が30プログラムを用意した結果、25のプログラムに高等学校32校から実人員325名の参加申し込みがあった。計画に沿って、職業に必要な知識・技術・資格等の講義と体験学習を実施した。延べ526名の高校生が受講した。

参加高校生や参加高等学校にアンケート調査を行った。実施専修学校にもアンケートを実施し、多角的に事業評価を試みた。実施報告会には参加専修学校の担当者により、実施状況の報告、カリキュラムの評価実施後の意見・感想、実施に向けての課題等について積極的に報告・協議が行われた。最後の実施委員会でも、高進研会長や県教育委員会指導主事等から評価をいただき、来年度実施に向けて協議した。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

昨年度の参加高等学校数21校、参加高校生数192人をを超えることを目標とした。このため、高校訪問や高等学校を始め各方面への広報に力を入れた。申込高等学校は10校増え、実参加高校生数も、延べ参加高校生数も4割増加するなど、高等学校との連携は、極めて高い達成度と評価している。

18の専修学校が25プログラムを実施した。工業5プログラム、医療7、衛生2、教育・社会福祉4、商業実務2、服飾・家政2、文化教養3の7分野で実施した。昨年度より1分野多いプログラムを実施することができた。自動車整備をはじめとするカリキュラムを多岐に亘り展開することができた。高校生のニーズに応えられる、多くの職業体験学習を実施することができた。高等学校との連携を一層深めたと同時に、高校生に多くのプログラムを提供し、体験学習ができたという達成度も、非常に高いと考えている。

参加高校生のアンケートでは、「参加してよかったですか」の質問に、大変満足168人64%、満足86人32%、普通10人4%、やや不満1人、不満0人と答え、「将来の仕事を考える上で参考になったか」の質問には、247人93%が「はい」と答えている。参加高校生が有意義な体験学習に参加できたこと、自分自身の将来を決めるきっかけを得たことに満足したことが伺える。参加高等学校へのアンケートでは、「職業教育としてとして意義があったか」、「内容は適当であったか」、「実施時期は適当であったか」、「生徒の反応は良かったか」のすべての質問に「はい」が100%という高評価で答えてくれた。また、高校生の参加状況や評価表の送付、修了証明書の発行などに、多くのお礼の言葉が寄せられ、埼玉県高等学校進路指導研究会長から、事業の意義を認め、この事業が長く継続されることを強く要望された。

実施専修学校へのアンケートでは、「生徒の反応は良かったか」が18校100%であった。「今年度の本企画は有意義であったか」が18校100%であった。このように、参加高校生、参加高等学校、実施専修学校の三者とも高い評価をしてくれ、目的が十分達成できたと判断している。

②事業により得られた成果

○高校生に多岐に亘る分野の職業体験学習が実施できた

専修学校で実施した25プログラムは、工業5、医療7、衛生2、教育・社会福祉4、商業実務2、服飾家政2、文化教養3の7分野であり、昨年より1分野増えた。カリキュラムの内容は、自動車整備、自動車整備と板金塗装、自動車の仕事、ゲームクリエイター、Webデザイン、医療事務、臨床検査技師、医療事務と調剤事務、鍼灸師、看護師、調理師、理美容師、介護福祉士、福祉分野の仕事、保育の仕事、保育士、会計士・税理士・経理事務、公務員の仕事、パタンナー、ファッション業界の仕事、DTP・Webデザイン、トリマー、動物看護師で、多岐に亘るカリキュラムを用意することにより、高校生に多くの職業体験学習を実施できた。高校生は「専門技術者のすごさを知った」、「将来の仕事を選ぶ良い機会であった」、高校教員から「将来を考えることにより普段の学習態度が良くなった」など、高校生の職業意識が向上したとの声が多く寄せられた。

○職業技術、専門技術の基礎が習得できた

全てのプログラムを2日間開催とし、体験に止まらず職業技術・専門技術の基礎が習得できる内容とした。演習や実務を重視したカリキュラムにしたことで、各分野の基礎技術が習得できたとの評価を得た。2日間参加し修了した生徒には、修了証明書を発行した。修了証明書を授与された高校生は喜びの声を上げ、高校生が職業体験や技術取得の証として修了証明書を授与されたことに、各高等学校の進路指導主任等から、深く感謝された。

○高等学校との教育連携が強化された

埼玉県高等学校進路指導研究会を核とし、高等学校との連携を図っている。この事業の実施にあたり、埼玉県、埼玉県教育委員会とともに、後援をいただき高校生の職業教育体験学習に対して強力なバックアップをいただいている。研究会役員との話し合い、埼玉県内の公立高等学校の進路指導主任等が集まる研究会総会での「わくわーく仕事塾」の説明、研究会長の本会機関紙への「わくわーく仕事塾」開催に対する感謝の言葉寄稿等と連携を強化することができた。個々の高等学校に対しては、受講状況報告書(生徒評価表)を送付したり、事業の案内や、実施後の報告と協力のお礼のために高等学校を訪問し、校長・進路指導主任等に直接お会いして理解を図っている。

③今後の活用

(社)埼玉県専修学校各種学校教育振興会では、平成18年度から高校生を対象として職業教育体験学習を実施し、職業意識の醸成と就労観の育成を図ってきた。

平成19年度から文部科学省の委託事業として実施し、平成20年度はさらに事業を拡大したことにより、事業の重みを一層増した。この結果、高等学校連携をさらに強化することになり、高等学校の信頼を得られるようになってきた。これからも、専修学校の専門的な知識や技能を活かして、さらに、この事業で得られた成果を活かすとともに、課題の解決に積極的に取り組み、高校生を対象とする職業体験学習はじめとする事業等を、継続的に事業を展開していきたい。

④次年度以降における課題・展開

実施委員会、実施報告会、分科会、参加専修学校からの報告等から、様々な課題等があげられている。特に以下の点については、より一層課題の解決を図っていきたい。

○専修学校がより多く参加し、県内どの地域でもバランスよく高校生が参加できる体制をとりたい。さらに、多岐に亘るプログラム設置をしていく。

○内容の分かりにくい名称のプログラムに、参加者が少なかったので、高校生が理解しやすい案内等に努めるなど、工夫していく。

○「楽しくわかりやすい」ことに努めたが、さらに、カリキュラム、資料、指導内容を改善し、短時間で効果の上がるプログラムに改善していく。

○まだ、専修学校等の体験入学の一環である。学生募集の一環であると捉えている高等学校もあるので、事業の目的の理解を周知することに努める。

○埼玉県高等学校進路指導研究会との協力関係を深め、高等学校との連携を一層推進していく。

○高校生の参加増大を図り、職業教育のスペシャリストとしての専修学校の存在意義を高めていきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

多岐に亘る分野の25のプログラムを下記のとおり実施した。

プログラム名	専修学校	期日	延受講者数
1 自動車整備士の仕事を知ろう	越生工業技術専門学校	7/28・29	36人
2 自動車整備・板金塗装の仕事を知ろう	埼玉自動車大学校	8/1・2	8
3 自動車の仕事を知ろう	関東工業自動車大学校	8/1・2	10
4 ゲームクリエイターの仕事を知ろう	アルスコンピュータ専門学校	8/7・8	43
5 Webデザインの仕事を知ろう	中央情報専門学校	8/4・5	12
6 医療事務の仕事を知ろう	中央情報専門学校	7/31・8/1	4
7 臨床検査技師の仕事を知ろう	東武医学技術専門学校	8/11・12	6
8 医療事務・調剤事務の仕事を知ろう	東武医学技術専門学校	8/11・12	2
9 医療事務・調剤事務の仕事を知ろう	東武医学技術専門学校	8/11・12	4
10 鍼灸師の仕事を知ろう	浦和専門学校	7/22・23	4
11 看護師の仕事を知ろう	浦和学院専門学校	8/25・26	33
12 リハビリの仕事を知ろう	上尾中央医療専門学校	8/19・20	21
13 調理師の仕事を知ろう	国際調理師専門学校	8/27・28	38
14 理容師・美容師の仕事を知ろう	ハンサム銀座理容美容専修学校	8/19・20	40
15 介護福祉士の仕事を知ろう	関東福祉専門学校	8/21・22	16
16 福祉分野の仕事を知ろう	埼玉福祉専門学校	8/9・10	22
17 保育分野の仕事を知ろう	埼玉福祉専門学校	8/9・10	62
18 保育士の仕事を知ろう	東萌保育専門学校	8/25・26	30
19 会計士・税理士・経理事務の仕事を知ろう	東京IT会計法律専門学校	8/1・2	11
20 公務員の仕事と試験制度を知ろう	東京IT会計法律専門学校	8/1・2	18
21 アパレル商品製作のパタンナーの仕事を知ろう	川口文化服装専門学校	7/23・24	10
22 ファッション業界の専門的な仕事を知ろう	大宮文化デザイン専門学校	7/31・8/1	13
23 DTP&Webデザインの仕事を知ろう	大宮文化デザイン専門学校	7/31・8/1	11
24 動物の仕事(トリマー)を知ろう	大宮国際動物専門学校	7/31・8/1	46
25 動物の仕事(動物看護師)を知ろう	大宮国際動物専門学校	7/31・8/1	26

各専修学校は、楽しく分かりやすいカリキュラムの研究を行い、教材を工夫し、専門的職業技術の基礎が習熟できるように、すべてのプログラムを2日間の開催とし、体験学習を計画通り実施した。

高校生へのアンケートでは、参加して満足したと93%が回答し、参加高等学校のすべてが意義ある事業であると回答し、来年度も継続することを要望している。実施専修学校でも、参加高校生の反応は良かったと、すべての学校が回答している。このように三者から高い評価を得られ、目的が十分達成できたことがうかがえる。

②その他

○専修学校、高等学校の連携により事業を推進し、県教育委員会指導主事や埼玉県高等学校進路指導研究会会長に実施委員に入ってもらい、実施したことが大きな特色である。高等学校側に学生募集の体験入学との受け止めもまだあり、さらに信頼関係の構築が必要であると感じている。

○専修学校の専門的な知識や技術を活かして、高校生の職業意識の涵養を図ることは、たやすくはない。高校生に分かりやすく楽しいカリキュラムを構築し、限られた時間の中で実施し、効果を上げるために、更なる指導の工夫が必要である。

これらを、今後とも、計画的、継続的に取組んで生きたい。